



石巻港復興だより第16号

(石巻港湾ひばりの通信39号)
—港湾は人の心も結んでいます—



朝日を受ける 木材チップ専用船「プログレイス」(P8参照)

〔年頭あいさつ〕

平成28年がスタートしました。あの東日本大震災から間もなく5年が経とうとしております。この間、県では石巻港の港湾施設の災害復旧をほぼ終了させ、現在は、港の安全・安心を高める防潮堤の復旧・復興工事を重点的に行っているところです。

一方、石巻港に立地しております港湾関連企業や港湾利用者の皆様にも、被災直後から精力的に復旧・復興にご尽力いただいた結果、東北地方における紙・パルプ、木材、飼肥料の生産、供給拠点として、港湾物流機能が順調に回復してきております。

また、昨年末には、雲雀野地区で「石炭・バイオマス混焼火力発電施設」の新設や、潮見地区では「木材加工工場」の増設の工事が始まり、さらに、石巻市で被災した造船会社2社によって設立した合同会社の新造船工場が西浜地区に移転して再建することが決まり、その建設にも着手されるなど、港湾関連企業の復興もめざましいものがありました。今後も、県内の産業・経済の拠点として、臨港地区内の工業用地の土地利用が進むことを期待しております。

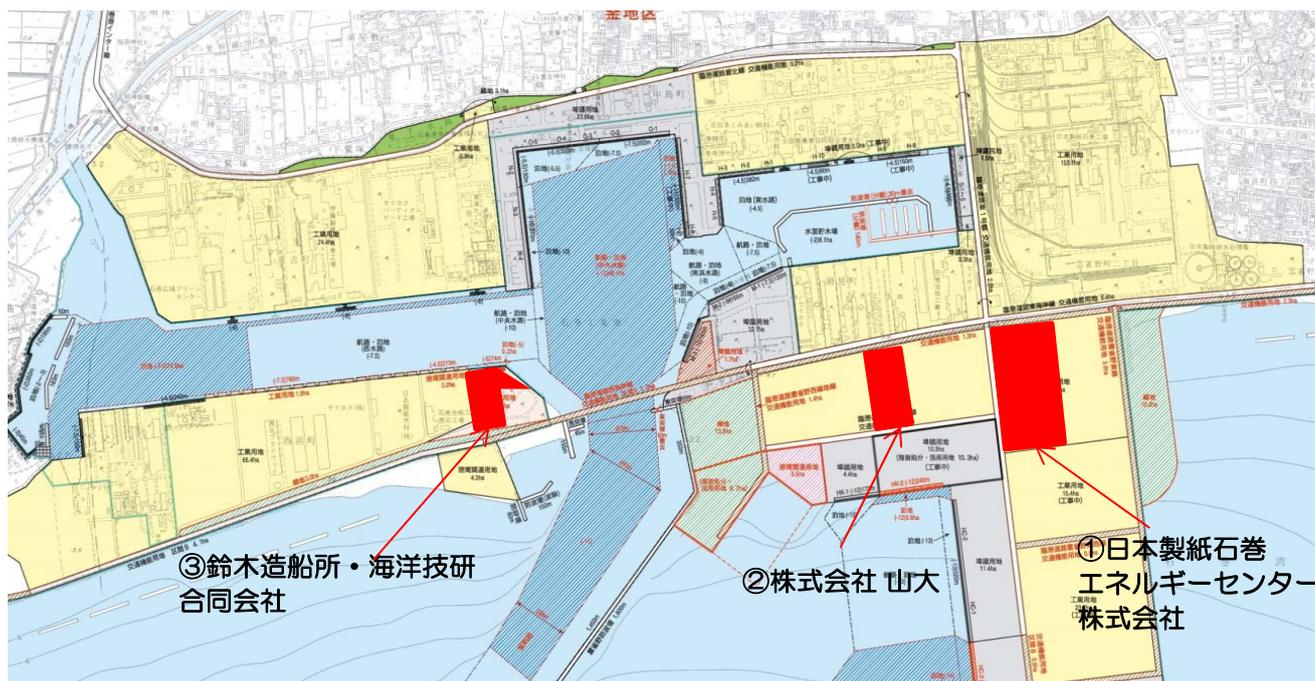
平成28年度は、国の「復興・創生期間」の初年度として、また、宮城県震災復興計画においては10年間の計画期間の折り返しの年となり、復興関連事業が最盛期を迎えます。

県では、東北唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港「石巻港区」の早期復興、そして産業・経済のさらなる発展に向け、今後とも、港湾関係者の皆様とともに石巻港の整備を推進し、円滑な管理・運営に努めて参りますので、今年もご理解とご支援、何卒よろしくお願い申し上げます。

【掲載内容】

- ・年頭あいさつ・・・・・・・・・・P1
- ・復興が進む港湾関連企業・・・・・・・・P2
- ・女川湾口防波堤 間もなく完成・・・・P4
- ・石巻港復旧・復興工事(防潮堤)の状況・・P5
- ・長期係留船・放置船の撤去等を要請・・・P7
- ・港湾区域の保安体制を確認・・・・・・P7
- ・環境整備で一致団結・・・・・・・・・・P8
- ・大型チップ船が石巻港を母港に・・・・P8
- ・石巻港の貨物量の推移・・・・・・・・・・P9
- ・石巻港工業用地分譲中・・・・・・・・・・P9
- ・未来の担い手が現場見学・・・・・・・・P10

復興が進む港湾関連企業



■復興が進む港湾関連企業 一企業の施設整備が目白押しー

①石巻雲雀野発電所が新設

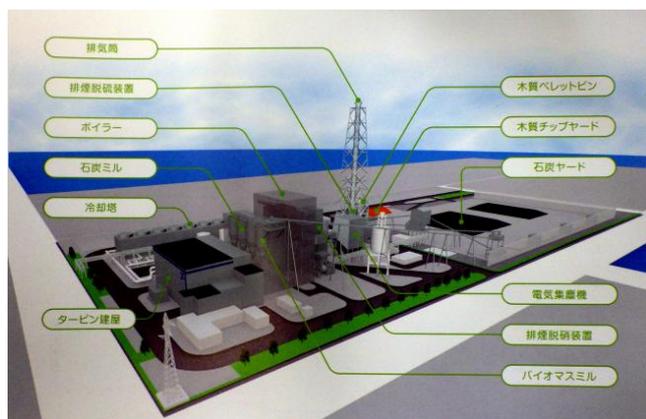
平成27年11月26日に、石巻市雲雀野地区で「石炭・バイオマス混焼火力発電施設（石巻雲雀野発電所）」の起工式が行われました。

日本製紙株式会社と三菱商事株式会社が、発電設備の運転、維持管理及び電力販売を目的に設立した「日本製紙石巻エネルギーセンター株式会社」が主体となり、平成30年3月の完成を予定しております。

面積約11.3haの敷地内に建設され、出力約15万kwの発電能力を有し、年間発電量は一般家庭の約30万世帯分の電力消費量に相当するとのこと。

当センターの東藤芳臣社長は、「安全で環境に配慮した施設にする。雇用や未利用材利用を通し、石巻地域に新しい事業の形を示したい。」と抱負を述べられました。

震災後、そして国際拠点港湾「仙台塩釜港」として統合一体化した「石巻港区」においては初の大型施設の建設であり、石巻市にとっても復興のシンボルとして大いに期待されることです。



②木材加工の第2工場が着工

石巻港の臨港地区内に本社を置く「株式会社 山大」では、この度、潮見地区において、既存工場に隣接する約4haの敷地に新たに木材加工工場を増設することになり、平成27年12月3日にその着工式が行われました。平成28年6月末を目途に工場を稼働させたいとのことです。

木村昭俊代表取締役社長からは、「今後、住宅や公共施設において国産材の需要が高まるとの判断から、今般の工場建設に至った。国産材の地産地消を通じて地域の経済活性化に貢献したい。」と力強い挨拶がありました。

同社は、震災で甚大な被害を受けたものの、いち早く工場を復旧、稼働させておりますが、この震災をバネにさらなる事業の拡大が図られることを祈念いたします。



③造船所が新設移転・再建

震災で被災した「株式会社 鈴木造船所」と「株式会社 海洋技研」は、新たに合同会社を設立し、西浜地区の県有地を取得して新造船所を建設することになり、平成27年12月1日に関係者参集のもと地鎮祭が行われました。

同造船所は、旧北上川左岸地区及び中瀬地区で被災後、仮設の工場で操業しておりましたが、国の河川堤防整備事業で移転が必要となり、この度の臨港地区への再建の運びとなりました。

敷地面積は約2haで、漁船と小型船舶の修繕をメインとした造船所として、平成29年3月末の完成を目標に建設するとのことです。

合同会社代表の鈴木千代正鈴木造船所社長は、「移転が決まってほっとしている。関係者の恩に報いるため、石巻の水産業の発展に寄与したい。」と感慨深げに述べられておりました。

一日も早い完成、操業を期待しております。



女川湾口防波堤 間もなく完成

平成23年3月11日に被災した女川湾口防波堤がいよいよ完成に近づいて来ました。

当該災害復旧工事は、平成24年1月から調査・設計を開始し、平成24年10月に着工しました。

総工事費約80億円で平成28年3月に完成予定です。

女川湾口第一線堤の復旧により女川港内の安全性が高まり、女川町のまちづくりに大きく貢献します。

■女川港平面図



①被災状況（平成23年10月）

津波の引き潮により、防波堤のほとんどが倒壊、流出しました。



②撤去開始（平成24年11月）

倒壊した防波堤を破砕し撤去工事を行いました。



③築堤の状況（平成25年6月）

既設部撤去後、いよいよケーソンの据付開始です。



④概成の状況（平成27年12月）

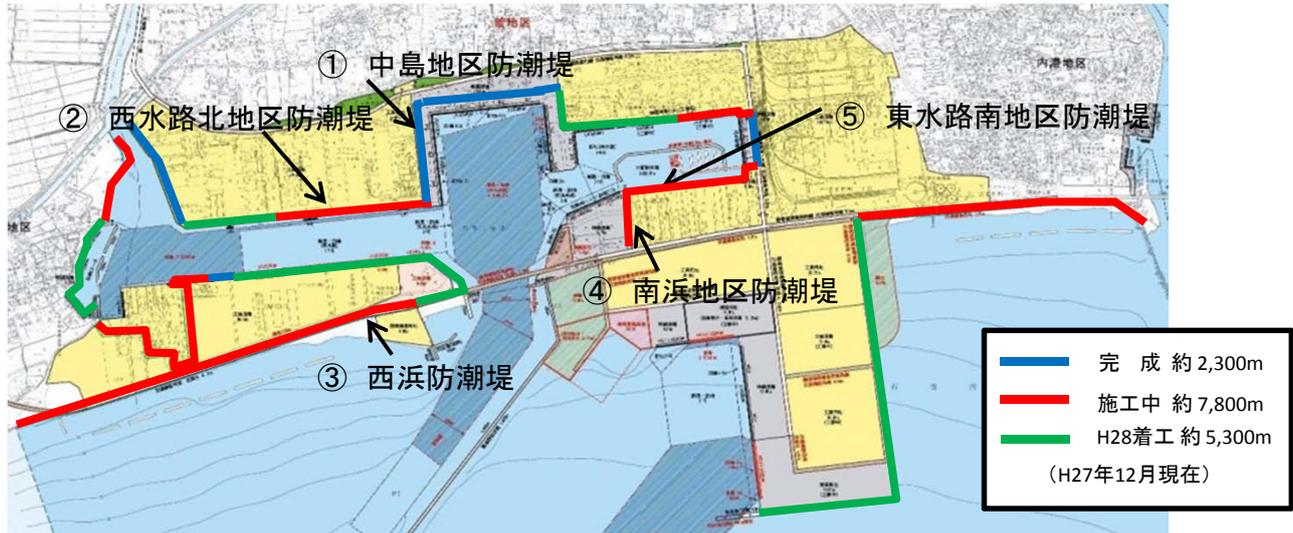
左右岸の全長がほぼ完成しました。



石巻港 復旧・復興工事(防潮堤)の状況

昨年度着工した石巻港内防潮堤工事は順調に進んでおり、続々と新たな防潮堤が着工しています。今後も施工現場の安全確保を図りながら、石巻港内の復旧・復興を加速させていきます。

■石巻港区平面図



新たに完成した箇所

①中島地区防潮堤

中島地区防潮堤のコンクリート擁壁は平成27年12月に完成しました。今後、擁壁の脇に管理用通路を施工するため、舗装工事を実施していきます。



着手前 (H27.3)



(H27.6)



現在 (H27.12)

施工中の箇所

②西水路北地区防潮堤

西水路北地区防潮堤はTP+3.5mを計画高としており、鋼管杭と鋼矢板を基礎としたコンクリート壁の施工を行っています。現在は鋼管杭の打込みを行っており、進捗率は40%となっています。



着手前 (H27.4)



(H27.11)



現在 (H27.12)

③西浜防潮堤

西浜防潮堤はTP+7.2mを計画高としており、現在は盛土をした部分にコンクリートブロックを被覆しています。西浜防潮堤全体としては49%の進捗となっています。



着手前 (H24.7)



(H27.9)



現在 (H27.12)

④南浜地区防潮堤

南浜地区防潮堤はTP+3.5mを計画高としており、鋼管杭と鋼矢板を基礎としたコンクリート壁の施工を行っています。現在はコンクリート壁の施工を行っており、進捗率は70%となっています。



着手前 (H26.3)



(H27.9)



現在 (H27.12)

⑤東水路南地区防潮堤

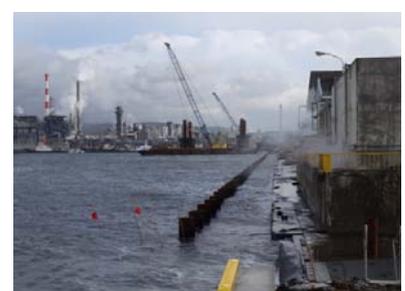
東水路南地区防潮堤はTP+3.5mを計画高としており、鋼管杭と鋼矢板を基礎としたコンクリート壁の施工を行っています。現在は鋼管杭の打込みを行っており、進捗率は32%となっています。



着手前 (H26.3)



施工状況 (H27.12)



現在 (H27.12)

長期係留船・放置船の撤去等を要請

■旧北上川河口域で長期係留船・放置船の撤去等を要請しました。

平成27年11月25日（水）、旧北上川河口域の不法係留船問題で、国、県並びに市の各管理者で構成する「旧北上川水面利用者協議会」は旧北上川河口域で水面の適正利用を利用者に呼びかける啓発活動を行いました。

長期係留船・放置船は、船や係留ロープが防災活動の支障になるほか、油流出による水質汚染など、防災、環境面で悪影響を及ぼすことが指摘されておりますので、適切な係留先へ移動をお願いします。

今後、南浜町の石巻市立病院跡地付近に100隻程度収用可能な陸揚げ方式の防災マリーナを石巻市が整備し、平成31年4月に供用開始する予定となっております。



港湾区域の保安体制を確認

■総合保安訓練を実施しました。

平成27年12月18日（金）石巻港区保安委員会による総合保安訓練を実施しました。

今回は、テロリストによる船舶の乗っ取り、破壊活動を想定し、関係機関の連絡協力体制の確認を行いました。

世界的にテロリスト対策が叫ばれる中、石巻港区においても、万全を期すようにして参ります。



①海上保安署による放水活動

船舶を乗っ取ったテロリストを制圧すべく、海上保安署による放水活動が行われました。

②警察官によるテロリスト確保

放水攻撃に堪りかねたテロリストが、船を着岸させ、上陸して逃亡を企てます。それをさせじと、警察官による大捕物となります。テロリストは、凶器を隠し持っている可能性があるため、慎重かつ迅速に2名の警察官により、テロリストは確保されました。



③消防署による負傷者の搬送

落水した負傷者を海上保安署が救助、駆けつけた救急車により、最寄りの病院へ救急搬送となりました。



環境整備で一致団結

■港内一斉清掃を行いました。

平成27年11月5日（木）石巻港に立地する企業約90社で構成する石巻港清港会の主催により、「秋季一斉清掃」が行われました。今回は、53団体、138名の方々が参加しました。

参加者は午前8時45分に集合し、2班に分かれ約2時間、石巻港内の幹線臨港道路の清掃を行いました。

可燃ゴミ450kg、空き缶などの不燃ゴミ116kg、その他の粗大ゴミとしてタイヤ7本、電化製品2点、鉄くず100kgなど合計約700kgを回収しました。

清掃活動などに従事していただいた皆様の熱心な取り組みにより、臨港道路は大変きれいになりました。石巻港清港会の皆様、大変お疲れ様でした。



大型チップ船が石巻港を母港に

■大型チップ船が日本国籍化を機に、石巻港を母港としました。

東日本大震災以前から日本製紙石巻工場へ原材料を輸送している株式会社 商船三井所有の木材チップ専用船「PRO GRACE＝プログレイス」が、この度、船籍（船の国籍）をケイマン諸島から日本へ移すとともに、母港も石巻として平成27年11月9日に入港しました。



この船は、震災後の平成23年11月30日、木材チップ専用船として入港した第一船であり、船名も、日本製紙株式会社の上質コート紙の製品名に由来しており、石巻港とはゆかりの深い船です。木材チップ専用船として主に豪州・ブラジル・ベトナムを積地に世界を航海し、石巻港に継続的に寄港しておりますが、母港である「石巻」の名を世界に広げ、これからも航海の安全を祈念いたします。

船名：PRO GRACE（プログレイス）	船種：木材チップ専用船
竣工：2007年7月19日	総トン数：46,432トン
載貨重量：53,896トン（夏季）	満載喫水10.818m（夏季）
全長：203.5m, 船幅37.2m,	

石巻港の貨物量の推移

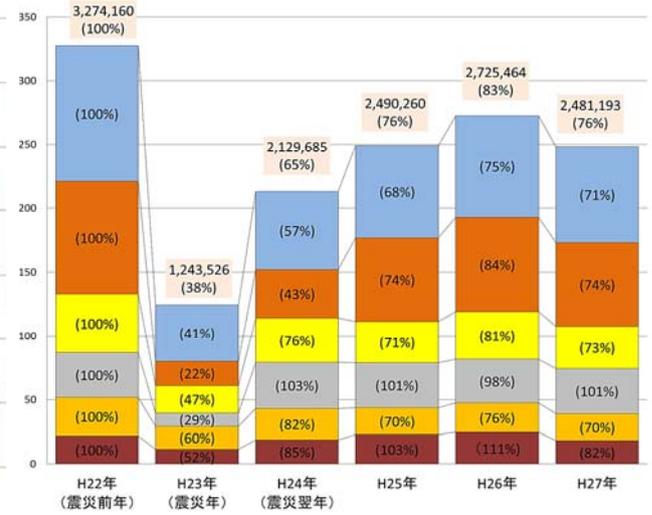
■平成27年1～10月の貨物量の累計は平成22年に対して90%。

震災の翌年度から順調に回復していましたが、平成27年の貨物量は減少傾向となっています。復興資材を除いた比率でも平成22年比76%。平成26年比でも減少傾向にあります。

1～10月貨物取扱量累計年比較
(内港含む ただしフェリー貨物分は除く)



左記グラフより砂・砂利等除く
※()内は2010年(H22)比



石巻港 工業用地分譲中

■工業用地は、現在3地区4区画にて分譲中です。



□大曲地区			
区画	面積(m ²)	用途地域	備考
M-1	68,676.56	工業専用地域	分譲中
M-2	85,615.53	工業専用地域	分譲中

□西浜地区			
区画	面積(m ²)	用途地域	備考
M-2	85,615.53	工業専用地域	分譲中

□雲雀野地区			
区画	面積(m ²)	用途地域	備考
D-1	約 83,000		造成中
D-2	約 73,000		造成中
D-3	約 131,000		造成中
F-3	44,277.80	工業専用地域	分譲中
F-7	41,583.68	工業専用地域	分譲中

宮城県の特典制度	
<input type="checkbox"/> みやぎ企業立地奨励金	
<input type="checkbox"/> 宮城県工業立地推進金融融資制度	
<input type="checkbox"/> 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業補助金	
<input type="checkbox"/> 民間投資促進特区の特典制度 等	

石巻市の優遇制度	東松島市の優遇制度
<input type="checkbox"/> 企業立地助成金	<input type="checkbox"/> 企業立地促進奨励金
<input type="checkbox"/> 上水道料金助成金	<input type="checkbox"/> 工業用地確保補助金
<input type="checkbox"/> 緑化推進助成金 等	<input type="checkbox"/> 環境整備促進補助金

※この他にも優遇制度がありますので、下記に問い合わせ下さい。

問い合わせ先	
宮城県経済商工観光部 産業立地推進課	TEL 022-211-2732
石巻市産業部産業推進課	TEL 0225-95-1111
東松島市産業部商工観光課	TEL 0225-82-1111

未来の担い手が現場見学

■宮城県建設業協会石巻支部青年会主催による高校生の現場見学会が行われました。

平成27年12月15日（火）、好天に恵まれたなか、石巻工業高校土木システム科の1年生（40名）が、西浜防潮堤の災害復旧現場を訪問。施工業者である株式会社丸本組の現場責任者から工事の概要や施工状況の説明を受けながら、少し緊張した表情で各現場を見学して回りました。

建設現場に直に触れることで、インフラの必要性や重要性、更には仕事の目的や仕組みなど、より一層理解が深められたと思います。なかには積極的に質問する生徒もあり、将来は頼もしい担い手になって活躍してくれることでしょう。



【防潮堤工事概要説明】



【被覆ブロック設置済箇所】



【被覆ブロック】



【被覆ブロック据付状況】

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
昨年中は、港湾行政に色々ご協力頂きありがとうございました。1日でも早い復旧・復興を目指して参りますので、本年も引き続きよろしくお願い致します。

編集事務局

宮城県石巻港湾事務所

〒986-0845 石巻市中島町17-2

電話:0225-95-6271

FAX:0225-95-6273

E-MAIL:iskown@pref.miyagi.jp

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/is-kouwan/>